



授業づくりの視点

運動に関する自らの課題を見いだしたり、解決に向けた学習過程を、単元の中に位置付けたりして主体的に取り組めるようにしましょう。

毎時間、学習活動を振り返る場を確保し、自分の運動が上達したことを実感するとともに、上達した理由を考えさせるようにしましょう。

運動することが、楽しさや喜びを実感するだけでなく、体力向上につながっていることにも着目できる活動を取り入れましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 器械運動（跳び箱運動）【第5学年】

技の美しさを単元を通して追求し、技を美しくするポイントを確認したり友達からの助言を受けたりしながら活動し、その技の上達を実感するとともに、楽しさや喜びを味わう単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

「開脚跳び」「台上前転」「かかえ込み跳び」を習得するとともに、その技の名称や行い方を理解する。

思考力、判断力、表現力等

友達からの助言を受けて、「開脚跳び」「台上前転」「かかえ込み跳び」をより美しくするためのポイントを考えたり、繰り返し練習したりして、上達した技を表現する。

学びに向かう力、人間性等

友達と協力して運動したり、考えや取組を認め合ったりして、「開脚跳び」「台上前転」「かかえ込み跳び」に積極的に挑戦するとともに、試技前後の安全に配慮する。

3 単元のデザイン 全7時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
技を美しくするという単元の見通しをもつ	◎ 手本の動画を見て技のイメージをもち、その技を美しくするために活動するという単元全体の見通しをもつ。 ・動画のように「開脚跳び」「台上前転」「かかえ込み跳び」が美しくできるようになりたい。
三つの技を習得する	◎ 教師が示した技のコツに気を付けて練習し、三つの技ができるようになる。 ・コツに気を付けて練習すると、三つの技ができるようになった。
挑戦する技を選び、助言と練習を繰り返し、技をより美しくする 本時	◎ 挑戦する技をより美しくするためのポイントを考え、練習する。 ・手本と友達の動きを比べ、より美しくするためにアドバイスをしよう。 ・技を美しくするために見つけたポイントを意識し、繰り返し練習をしよう。
技の発表会を行う	◎ これまでの活動を振り返り、技が上達したことを実感する。 ・見つけたポイントに気を付けると美しい技にだんだんと近づいてきた。 ・ポイントに気を付けたり、友達と協力したりして、技が上手くなると嬉しいな。
単元のまとめをする	

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 手本の動画や技を美しくするためのコツを示すことにより、児童に見通しをもたせる。
- 気付いたポイントを大切に学習を振り返らせ、次への学びにつなげる。

対話的な学び

- 友達の練習を観察する活動、友達の動画と手本の動画を比べ助言し合う活動を取り入れ、技を美しくするために妥当性のあるポイントを見付けるようにする。

深い学び

- 自分の活動を動画で見たり、友達からの助言やフィードバックを得たりする場を設け、上達だけでなく、友達と協力することのよさを実感できるようにする。

本時のねらい

挑戦する技のポイントについて考え、友達からの助言を通してより美しく表現することができる。

本時の流れ

児童の学びの姿

教師の手だて

学習の見通しをもち、本時のめあてを確認する

めあて

挑戦する技を美しくするポイントについて考え、練習を工夫しよう

手本と自分達の動きの違いについて、個人で考えた後、友達と話し合う

友達の助言を意識して3人組で活動する

学習内容をまとめる

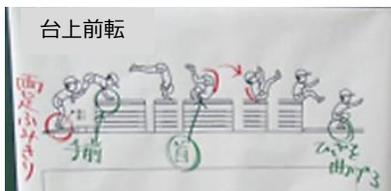
まとめ

友達からの助言から見付けたポイントを意識すると、より美しく表現できる

振り返りをする

◎**手本の動画や絵図を見て、本時のめあてをつかむ。**

- ・手本の動きや絵図を参考にし、自分に合ったポイントを見付けて練習すると、美しい技に近付けそうだ。



〔台上前転のコツを示した絵図の例〕

◎**手本と自分や友達の動きを比べ、より美しい技にするために助言し合う。**

- ・手本と同じように跳び箱の手前に手を着くといいよ。
- ・強く踏み切り腰を高く上げて跳ぶといいよ。

◎**友達の助言を意識して練習を工夫する。**

- ・強く踏み切って跳んでみよう。
- ・跳び箱の手前に手を着いたらうまく回転できた。



◎**学習を振り返り、分かったことをワークシートに書き、発表する。**

- ・友達のアドバイスを意識して練習すると上手くできた。
- ・あごを引いて回るといふポイントを見付けた。

主体的な学びの手だて

手本の動画を示したり、技のコツを示した絵図を確認させたりすることで本時のめあてをつかみやすくする。

- 三つの中から、挑戦する技を選ばせ、導入で示した技のコツに留意して練習させる。

- 練習の様子をビデオで撮影するとともに、同じ班の友達の練習を観察させる。

対話的な学びの手だて

自分や友達の動画を手本の動画と比べ、より美しくするポイントについて互いに助言し合うようにする。

深い学びの手だて

もう一度めあてを確認し、友達の助言から技をより美しくするポイントを考えさせる。その後、考えたポイントを意識して練習するように促す。

- できるようになったことや分かったことに加えて、どのようなポイントが効果的だったのかについて振り返るようにする。

Point

見通しをもたせる
提示の工夫

手本を視覚的に確認するだけでなく、技を上手にするコツを示す等して、児童がめあてを自分のこととして捉え、主体的に学ぶことができるようにしましょう。

Point

意義を明確にした話し合い

手本の動画や教師が示したコツを手掛かりにして、自分達の動画を比べて留意することを見付け、その上で助言し合うようにしましょう。

Point

上達を自覚する活動

個人で練習する前に、めあてに立ち返ったり、留意するポイントを意識させたりしましょう。活動後の振り返りでは、新たにできるようになったことを考えさせ、技の上達を実感できるようにしましょう。



授業づくりの視点

生徒自らが運動についての課題の解決に向けて、試行錯誤や対話を重ね、主体的に取り組むことができるようにしましょう。

運動することの価値やその特性に着目させ、楽しさや喜びを体感することに加え、その運動が体力向上に果たす役割の視点からも捉えることができるようにしましょう。

よりよい課題の解決を図るために自分だけでなく友達の課題の解決についても考え、助言するなどの学習を取り入れましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 武道（剣道） [第2学年]

攻防を展開したり発展的な技を出したりする中で自他の課題を見付け、その課題を解決するために手本と自他の動きを比較し、助言し合う等の活動を通してその技ができる楽しさや喜びを味わう単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

剣道の特性や成り立ち、技の名称や行い方を理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて、相手の動きに応じて打ったり受けたりする等の簡易な攻防をする。

思考力、判断力、表現力等

攻防や発展的な技の習得に向けた自他の課題を見付け、課題の解決に向けて適切な方法を考え、技の行い方の工夫について考えたり、友達と助言し合ったりする。

学びに向かう力、人間性等

自他の課題の解決に向けて、練習の方法を自分で選ぶ等、主体的に考え活動するとともに、友達の助言や挑戦を尊重しようとする。

3 単元のデザイン 全12時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元の見直しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 手本の動画を見て、単元全体のイメージをつかむとともに剣道の特性を踏まえ、友達との関わり合いの中で自他の課題をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技や動きを組み合わせて、手本の動画のような一本を取れるようになりたい。 ・ 課題を解決するために留意するポイントを友達と協力して見付けたい。
基本となる技を習得する 課題の解決の方法を考え、適切な方法を選択し、試行錯誤や対話を重ね、応じ技を習得する 本時	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 技を出すタイミング等、基本となる技のポイントを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技を出すタイミング等の留意するポイントは、それぞれの技で違うんだ。 ◎ 課題の解決に向けて自他で考えた解決の方法に気付き、選択して活動する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の動きをしっかりと見ながら技を出すことが大切だ。 ・ 習った技や動きを組み合わせると一本を取りやすくなることが分かった。
技の発表会を行う 単元のまとめをする	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 技の完成に近付いたことや剣道の楽しさを実感する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の始めで見た手本に近付いている。 ・ 技が完成に近付いたり、相手と攻防することは楽しいな。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 手本の動画や技の完成に近づく練習方法を示すことにより、生徒に見通しをもたせる。
- 自他で考えた課題の解決の方法を大切に学習を振り返らせ、次への学びにつなげる。

対話的な学び

- 自分だけでなく友達の課題やその解決の方法についても考え、選択できるようにする。
- 友達と対話しながら自他の課題の解決に取り組む場を設定する。

深い学び

- 自他で考えた留意するポイントを意識して活動し、上達した要因について自分で考えたり、話し合わせたりして、技が完成に近付いていることを実感できるようにする。

本時のねらい

応じ技である「面抜き胴」を効果的に打つための留意するポイントについて考え、技の完成に近付けることができる。

本時の流れ

生徒の学びの姿

教師の手だて

学習の見通しをもち、本時のめあてを確認する

めあて

「面抜き胴」をよりよく打つためのポイントを見付けよう

手本と自他の動きとの比較から、「面抜き胴」のポイントについて個人で考えた後、友達と話し合う

見付けたポイントに留意し、班で活動する

学習内容をまとめる

まとめ

自他で考えたポイントで「面抜き胴」を打つと技が上達した

振り返りをする

- ◎「面抜き胴」の動画を見て、**本時のめあてをつかむ。**
- ・技のつながりを意識すると、技の完成に近付きそうだ。
 - ・相手の動き始めのタイミングをしっかりと見るとうまく打てそうだ。



- ◎「面抜き胴」をよりよく打つためのポイントについて考える。
- ・打突部位を外すのは、手本と何が違うからだろう。
 - ・技を決めるためにもっと速く胴を抜くことが大切だ。

- ◎考えたポイントで活動し、さらによりよくするためのポイントについて考える。
- ・胴を抜くのが遅いからもっと速く抜いてみよう。
 - ・胴を速く抜くためには、面を打つ方も速く打つとよい。



- ◎学習を振り返り、分かったことをワークシートに書き、発表する。
- ・「面抜き胴」の留意するポイントを意識することで技の完成に近付いた。

主体的な学びの手だて 「面抜き胴」の動画に、教師が技を出すタイミングの解説を加えることで本時の見通しとめあてをつかむことができるようにする。

- 見通しをもちにくい生徒には、相手の動き始めを見ること等のヒントを示す。
- 生徒一人一人が考えた方法により活動させ、その様子をビデオで撮影する。

対話的な学びの手だて 手本と自分の動きを同時再生する動画を見た後に、本時のめあてを踏まえて、よりよく打つためのポイントについて話し合う場を設定する。

深い学びの手だて 生徒一人一人が留意するポイントによって活動した後、上手いかなかったことについて話し合わせ、互いに助言させるようにし、新たな気づきを促すようにする。

- 再度考えたポイントを意識させて、友達と助言し合いながら活動させる。

- できるようになったことや活動を通して気付いたことについて振り返るように助言する。

Point

めあてを主体的
につかませる

手本を視覚的に確認するだけでなく、留意点を教師が場面に応じて示すことで、生徒が技の完成のイメージをもちやすくするとともに、めあてを自分のこととして捉えることができるようにしましょう。

Point

話し合う視点の
提示

話し合いに入る前に、もう一度めあてを生徒に意識させたり、教師が話し合う視点を示したりして、話し合う意義と内容を生徒一人一人が理解できるようにしましょう。

Point

学びを深める
活動

自分たちで考えた技のポイントを生かして活動するだけでなく、よりよい技にするために、もう一度班で考えたり、話し合ったりする活動を取り入れましょう。